

日本マスターズ柔道

ホームページ <http://jmja.jp/>

2013年1月15日
JMJA-News 第12号

日本マスターズ柔道協会

〒153-0065

東京都目黒区中町2-45-8-209

電話/FAX 03(3793)1846

発行 会長 清水正敬

第9回日本マスターズ柔道大会が 山口県周南市で開催されました



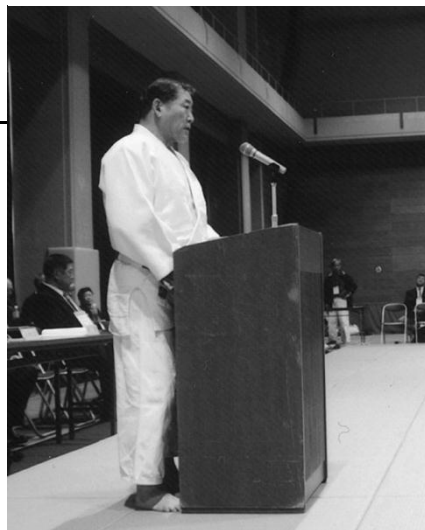
選手宣誓 近藤泰章選手（山口県）

「初心」「驚」とユーモアを交え楽しいトークを披露していたノーベル生理学・医学賞受賞の山中伸弥教授も中、高等学校時代に柔道に励み、柔道二段と知り、同じ柔道愛好家として大変嬉しく思いました。

さらに、29年振りの年末衆議院議員選挙では、自由民主党が圧勝し、第二次安倍内閣が誕生し、高村副総裁は留任されました。低迷する日本を、明るい未来ある日本へと

2013年の新年を迎え新春のお慶びを申し上げます。

今年も皆様にとりまして生涯柔道を通じて素晴らしい前進の年になるよう祈念いたします。昨年の柔道界は、講道館創立130年の年であり、ロンドン五輪では多くの感動を受け、中学生の武道必修化で柔道選



新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会会長

清水正敬

扱が一番多いと喜び、そして12月には、スウェーデン・ストックホルムでの会見で「幸運だった」

導いてくれる事を期待するところです。

ここで、昨年の日本マスターズ柔道協会の活動を振り返り、又、今年の活動計画を展望いたします。

協会の2大イベントは

①毎年恒例の（春から夏にかけて開催される）1999年創設した世界マスターズ大会―2009年以降はIJF（国際柔道連盟）グランドマスターズに移行―に参加する事。

②日本マスターズ柔道大会を秋に、開催する事。日本マスターズ柔道協会は2004年創立以来順調に会員数も増加し、毎年積極的な活動が行われています。

昨年は初めて海外の大会に参加する事が出来ず残念でした。当初ブラジル・サルバドール開催予定で多くの会員が楽しみにしていましたが、参加申込を始めた7月13日の二金会の稽古日に中止の連絡を受けました。その後のIJFの日程と開催地の調整に期待しましたが、決定されたアメリカ・フロリダでの開催は、山口大会と日程が重なり、参加出来ませんでした。

昨年の日本マスターズ柔道大会は山口県周南市のキンビレッジ周南総合スポーツセンターに

於いて11月10日・11日に開催いたしました。日本マスターズ柔道大会を振り返って見ますと、第一回静岡大会から第七回新潟大会までは各県柔道連盟様に主管をお願いし、立派な運営をして頂いて参りました。

一昨年第八回千葉大会の際は千葉県柔道連盟様のご都合なこともあり、日本マスターズ柔道協会が運営を行う事となり、関係各位のご協力を頂き、種々新しい取り組みを実施し、つつが無く運営することが出来ました。

千葉大会の運営実績により、山口県柔道協会様との大会開催の打合せをして、余りご負担をお掛けせずに協力頂く共催の形でお引き受け頂きました。

森次山口県柔道協会会長、坂井理事長、吉岡周南市柔道協会会長、永富事務局長他役員の方々との二度の打合せでご賛同を頂き、開催することになりました。大会運営の詳細については千葉大会と同様、協会小林事務局長、玉田兵庫県協会のお二人が山口県・周南市永富事務局長ときめ細かい計画と準備を整え、HPからの申込受付から大会当日までご尽力頂きました。

毎年海外から参加頂くニュージーランドからの6人をはじめ、全国各地より総計420人の参加が

あり、大会は事故や、大きな怪我も無く盛会裡に終わることができました。

参加者の内、近畿、中国・四国、九州で56%と地元に近い県が多かった。特に開催県山口県勢は前年千葉大会で2人、それまで会員10人のところ、44人参加と大幅に増やして頂き東京の41人を抜きトップであった。

これは、森次会長以下県柔道協会様の一体感の「証」と感動すら覚えました。大会初日の開会式には会長以下多数の役員のご出席を頂き、又、ご多忙の中、高村自由民主党副総裁、木村周南市長にご臨席を頂き、祝辞を頂戴いたしました。客席からは山口県選手への多くの応援もあり、形の部、試合の部の優勝を始め続々と上位入賞者が出ていました。特に二日目団体戦では前年同様10チームの強豪が激突、決勝は常勝チーム兵庫柔剣会と東京丸の内倶楽部を破った、チームヤマグチ対岡山県柔道連盟となり、館内は大いに盛り上がった。両軍共、県警・刑務官等強力メンバーを揃えての試合であった。ヤマグチの監督で副将(七十代)は、岡山前理事長を配し必勝の布陣が窺われた。開催県のチームヤマグチが優勝し日本武道館杯を勝ち取った。特に五将の赤

尾信行選手、七将砂川利和選手は日本マスターズ柔道大会に四回目の出場と共に個人戦でも優勝を飾り、赤尾選手は、形の部でも五の形・古式の形でも優勝を飾った。一方岡山県チームでは、6将美濃達也選手は今回5度目の出場でボランティア審判が主体で団体戦のみの参加でした。全日本形競技会の古式の形では、4将田村吉永選手と組み平成二十年以降三位・優勝・二位と活躍しておられるお二人です。十日夜の懇親会は、高村副総裁の奥様のご臨席を頂き、貝瀬審査委員長、関根審判長、山口県森次会長、浅田名誉会長、他役員の方々、ニュージーランドの会員、全国からの会員170人の参加があり地区、県、三世代を越えての柔道談議で和気藹々の楽しいひとときを過ごしました。

①競技係員の徳山大学生を含め山口県柔道協会様の一致団結したご支援・ご協力を頂いた事。
②千葉大会より導入したHPからの申込は、千葉では29.2%であったが、今回目標とした70%を71.2%(298人)と超



今年度の活動計画として
*第5回 JF グランドマスターズ大会 (12月20日現在) HPにはアブダビ首長国と掲載されていますが、日程が未だ発表されていませんので、今年もどうなるのかと不安です。前半なら時間が無いし、秋は日本マスターズ柔道大会と重ならないかと心配です。

え受付作業効率と転記ミス等が無く経費削減にも繋がった事。
③関根審判長の試合上の注意の後、救護の森本先生の言葉「千葉大会では救急車が5台来た。十分準備体操をしない。無理な技は掛けるな。怪我をしない、させない。」の効果が有り、言葉を各々に噛み締めながらの結果十一日に2台の救急車の出動があつたが大きな怪我で無く済んだ事。
大会を成功に導いて頂きました皆様に感謝申し上げます。

*第2回 JF アジア大会が JF 主催で、同時に第10回記念日本マスターズ柔道大会を9月21(土)・22日(日)に講道館で行う事になりました。
大会に向けての打合せを昨年12月17日に全日本柔道連盟小野沢専務、村上事務局長、小俣総務委員長、細川 JF 委員、東京都柔道連盟関根副会長、等の方々と行った。
ベースは大きくは変わらないと思いますが JF の要望もあり、早急に大会要項等詰めて5月には申

込受付する計画で具体化して行きたい。
10回大会会場は講道館ですので参加者数の増加は間違いありませんが、どの程度になるかは読めません。
特にアジアのメンバー他、外国人は読めません、前回第1回新潟大会時(第7回日本マスターズ)では50人程度でした。
*今大会では是非女子参加者を50人以上にしたいと考えます。現状は平均20人で全体の5%1回大会から9回大会まで男女累計3,255人女子累計183人で内83人が形出場者であつた。全日本形大会優勝者の横山、大森、小瀬、二位の大宮、松永、江波戸、菅沼、竹淵三位の今立、齊院、黒田の各ベテランの皆様方が参加頂いているので今大会はさらに若手の方々の積極的な参加を期待します。形の部が主体で試合出場者が少数の為に年齢・体重で組合せが出来ない場合も多く、参加料を納めるも試合無しでのメダル授与では不満が多かったため、今後仲間を誘つてもらう声掛け運動の実施と、立ち上がりつつある各支部関係者のお力をお借りしていきたい。

女子の部団体戦盛上げの為に優勝杯を検討したい。

＊「段」＝「昇段」前会報にも書きましたが、高齢で低段者は一般に試合する機会が無いが、この大会では2日で人により5、6試合を行う場合もあります。4・5段位までの昇段のポイントに考慮頂く様PRして行きます。（講道館でも検討していただいている様なので期待したい。）

＊山口大会のプログラムに掲載した様に、80代7人、70代43人の元気な高齢者が参加したが、疲労面等を考慮 今後は 形の部3種目出場を2種目までに、試合は2日間で6試合、5試合以下にする方向で検討して行きます。

＊日本マスターズ柔道大会は国体開催した県で翌年に行つて来ました。本来今年は岐阜県ですが、東京都と交代して頂き、来年に岐阜県でお願いする事を、岐阜県柔道協会谷口理事長にご了解頂いております。来年の岐阜県大会も宜しくお願い致します。

今年も元気で道衣を着て、よい汗とビールでマスターズ柔道を楽しみましょう！

新年のご挨拶

日本マスターズ柔道協会名誉会長

野口 宏水

新年明けましておめでとうございます。

皆様にはご家族お揃いで本年も良い新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

七十七歳喜寿にしてマサカ!!の二度目のガンとの試合に、目下二連勝を賭けてヨチヨチ歩きの幼児期体験を思い返しながらリハビリ中です。新年より、築後十年程遊休設備となつていました自宅のエレベータが役に立つてくれそうです。

本年もどうぞよろしくご指導下さい。(二〇一三年年賀状より)

以下やや長文になりますが、昨年暮れのある日、十二月十六日の講道館道友会大会形の部出場に向けた稽古を終え、入院中の小生を見舞いにお立ち寄りいただいた西久保会報担当常務理事(形のパートナー三橋常務理事同道)のご了承を得ましたので、ご高読下さい。特に今回の小生の前立腺ガンは、会員各位もあらかじめ気をつけていれば避けられますので、ご注意を喚起する意も含めております。

「人間万事塞翁が馬」「禍福は糾える縄の如し」といいます。ここ四〇五年来、両膝痛に始まり、近頃は背中、胸骨、腰と痛みが増すものの、柔道のやりすぎによる筋肉痛だろうと軽く考えていました。ところが痛みが段々と耐え難くなり、日頃主治医として診てもらっている慶應義塾柔道部後輩で東京都済生会中央病院の高木誠病院長に精密検査をしてもらったら、前立腺ガンの指標となるPSAが正常値「四」のところ「一、五〇〇」という天文学的数値にハネ上がっている!!その場で「即入院です!!」と宣告され、十月九日以降、放射線・ホルモンの両療法、次いで脊椎に転移したガンを切除し下半身麻痺を防ぐ手術を受け(計三回)現在リハビリ中。七十七年の長きにわたり、毎日ナニゲナクやってきた、立つて足を前に出す、所謂歩く動作の練習に明け暮れています。新年も、点滴が必要であれば我が家で迎えることができず、帰宅越年が可能かどうか目下判決待ちです(十二月十六

日現在)。

皆さんにおかれましても、健康診断での血液検査では、是非PSAを項目に加えられることを心よりオススメします。

写真1は、昨十月末、医師団の先生方より手術の説明を受けた時のもの。いよいよ十一月十日のマスターズ山口大会間近となり、小生がお声を掛け、開会式でご祝辞をお願いした高村元外務大



臣がご出席されとのこと。清水会長の三田柔友会同期の塚田、野口和、辻岡、竹内の諸兄が「野口さん、皆で車イスに載せて新幹線で山口までエスコートします」と言ってくれ是非馳せ参じたく、参加すべきか否かにつき先生方と妻、長男夫婦に甥夫妻を交えて家族会議を開いたところ結局「長時間の新幹線での移動は無理です」との先生方の言葉で残念ながらあえなく断念。

サテ、手術はどうするか? 高

木病院長は「もし手術しなかったら余命いくばくか?」の小生の質問に対し「数カ月です」と即答。「自分は肥前の国神埼・鳥羽院の山に生誕三百八十年の野口家初代・馬ノ允の血を引き『武士道とは死ぬことと見つけたり』と説く葉隠武士の末裔ゆ



え、ただ短剣の一突きではなく切腹の作法により自殺する！」日頃より「我が人生、仕事と柔道と酒」と豪語していたので、この年齢になり社会貢献もできず、ただ徒らに家族・社会に迷惑をかけて生きながらえるより、自ら切腹して果てよう！との言が口をついて出てしまった。

「自殺すれば自分は良いかもしれませんが、子供に迷惑がかかります」という妻、「孫が寂しがあります」という長男の嫁、入院して同室だった九十七歳の膀胱

ガンを患う老人が嬉々として孫・子に手を引かれて退院して行く様を見て、舌ガンのため言葉を失った人、その他大勢小生と同じガンを治療する人が多くいた。七十歳を過ぎたらガンの治療はするな」との最近読んだ医師の言葉や、小生自身「早期発見の不幸、手遅れの幸せ」などと分かったつもりで言っていただけに、その場になってやはりガンへの怯懦となり：ひと騒ぎしたものの、結局は手術を決心した次第。

写真2 清水会長

並びに溝井元警視庁師範と写っているのは、二〇一二年ミスインターナショナル・グランプリ受賞の文字通り世界一の美女、吉松育美さん。小生の郷土佐賀鳥栖高校から聖心女子大出身で去る七月の東京佐賀県人大会で面識を得た時はミス・インターナショナル日本代表でしたが、さすが肥前の国のナデシコ、世界一の才色兼

備となりました。その祝賀会で来る九月の第十回記念アジアグランプリ・マスターズ柔道講道館大会に臨席・錦上花を添え、生涯柔道家の面々の前に立っていただくことを願って、美女を囲みご両所が記念撮影してもらったもの。

ところで、当然ながら入院以来、酒は一滴も飲んでおりません。稽古後の一杯が忘れられず、「ア、早く退院して皆と再会して飲みたい!!」と切に思うこの頃、その節はヨロシクお願いします!!

「関根 忍」九段誕生

2005年(平成17年)世界マスターズ柔道協会本部・カナダ主催、第5回世界マスターズ柔道大会が日本の講道館(選手900人、内600人の外国人選手)で行われた際、ミュンヘン・オリンピック中量級・金メダリスト「関根 忍」先生に審判長をお願いして以来、翌年第一回日本マスターズ柔道大会、浜北市(静岡県)から昨年の第九回周南市(山口県)迄「審判長」



を務められ、日本マスターズ柔道の歴史を支えてこられた「関根 忍」先生に、昨年4月28日(土)、講道館創立130周年記念式典が盛大に行われた同日、午前11時より講道館会議室において、「技

第9回日本マスターズ柔道大会を顧みて

第9回日本マスターズ柔道大会が、11月10、11日山口県周南市において開催された。本大会は生涯柔道を目標に、30歳以上の柔道愛好家が集い

能卓越、斯道の普及発展に尽力功績顕著」として上村春樹講道館長から九段証書が授与されました。

関根 忍九段の昇段者の「ことば」は次のとおりです。

「講道館創立130周年の記念すべき年に九段に列して戴き、心から光栄に存じますと共に厚くお礼申し上げます。柔道人口の減少、競技力の低下、重篤な怪我の発生等、かつては想像もしなかった昨今の柔道界ですが、伝統文化が未来永劫に発展して行くよう精進することをお誓いし、昇段のご挨拶に代えさせていただきます。

「講道館 「柔道」
2012年6月号より」

山口県柔道協会 理事長
坂井 清美

競技を行うもので、当日は全国各地から420名が参加した。競技は、形の部と個人戦並びに団体戦で競うもので、形の部はいずれの組も素晴らしい演技が披



団体戦優勝 チームヤマグチ のメンバー



祝辞を述べる
高村正彦 自民党副総裁



挨拶される森次会長

露された。
個人戦は年齢別、体重別で行われたが、平素鍛錬した技術・氣力を遺憾なく発揮し、年齢を感じさせない試合が展開され、見るものに感動を与えた。
団体戦においては、地元からぜひ1チーム出そうということで、急遽チーム編成したわけではあるが、男女ともに優勝し、会場を大いに盛り上げる結果となったことは、嬉しい限りであった。

本年は、第10回記念大会ということで、講道館で開催され、おめでとうございます。本大会が益々発展することを祈念申し上げます。



マスターズ功労賞 受賞者

前列左 美濃岡清三郎 (87歳・兵庫)	前列中央 上島彬 (88歳・大分)	前列右 大田尚充 (86歳・青森)
後列左 高橋勘十 (81歳・岩手)	後列中央 安河内浩 (80歳・東京)	後列右 森本唯行 (80歳・神奈川)

※囲み写真：中山孝行 (84歳・富山)



テキにカツで敵に勝つ？
上島 彬 (大分県)
勝ちたいなら、間違ってもビフテキやカツを食べてはいけません。とにかく、ハンバーグ、エビフライなど勝つためには最悪のメニュー、肉や魚、卵、そして揚げ物、高脂肪、高タンパクの食べ物は消化吸収も遅く、激しい運動のエネルギー源になりません。これでは試合中に呼吸が苦しくなったり、体が重く感じて力を出し切ることとは不可能です。牛や豚の体温は高いので血管の中では固まらずスムーズに流れます。人の体温は牛や豚に比べて低いので、血液が流れにくく、筋肉の血液は著しく減少します。
試合前、敵(テキ)に勝つ(トンカツ)とばかり動物性タンパク質を取り過ぎると、体はガタガタになりますぞ！

山口大会に参加して

美濃岡清三郎 (兵庫県)

この度第九回日本マスターズ柔道大会に参加させていただきました。

大会開催に先立ち本大会の多くの熟年柔道愛好家が集まる中、87歳の私に、柔道発展と長寿高齢の進展に伴う生涯スポーツの必要性、そして生涯現役の柔道を楽しむようにと「マスターズ功労賞」を戴きました。又日本マスターズ柔道大会五回出場表彰も併せて戴きました。これからも元気老人になることを望まれて生涯柔道を楽しく、健康と長寿を共に喜び、今後の人生における希望と活力につなげることを誓います。

2日目は73 kg級及び無差別の試合で生涯柔道を通じて健康と長寿を共にした者同士が試合場以上にがり真剣に戦う様、又自分自身試合上に立つて若き日を蘇らせ、緊張感を味わいました。正々堂々と競技を行いました。太田先生、上島先生と戦いました。名残惜しいですが再会を楽しみにしております。形の大会を見学させて戴きました。私も八十六歳の年、古式の形の試験を受け、合格し八段に昇段致しま



した。日本マスターズ柔道協会・清水会長、共催(社)山口県柔道協会の皆様、審査、審判の諸先生方、役員の先生方、本当にお世話に相成りました。ありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。第十回大会を楽しみにお待ちしております。

おのれに向き合う

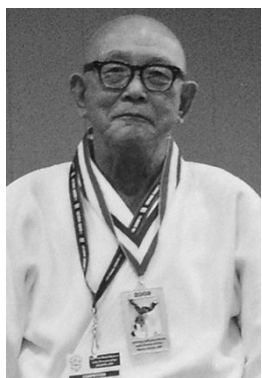
太田 尚充 (青森県)

かつての、武道・武芸の熱心な修行者たちは体力が衰える晩年に至って、どのような修行をしていたものか。小生も年齢(とし)老いるに従い、この問題について、是非とも知りたいと考えていました。このような時に、たまたま読んで

いた渡辺一郎編の「武道の名著」という書物に、起倒流柔術の水野忠通(ただのり)が文化3年(1806)に書きあらわした「柔道雨中間答」を紹介していて、次のような一節に出くわしました。

「柔道老年に至りては、事(わざ)も成りがたしと云えり。当流(起倒流柔術)も左(さ)あらんや。また、死に臨むと云えども、絶えず聞けりと。答えて曰く、事(わざ)の取り廻しは、五十歳を超えると、壮年の如くに成し難(がた)かるべし。然れども、心気(こけ)の事理、天理自然の事は、呼吸の通い、歩行のならん限りは、替(か)わることなるべし。道の位に至つては、諸道以てしかり。語(ご)論(ろん)語(ご)にも、曾子曰く、仁以て己(おのれ)が伝と為す。また重(おも)からずや。死して後(のち)已(や)む。また遠(とほ)からずやと云えり。

右は、五十歳を超える修行者の進むべき道として、第一に「心気の事理」「天理自然の事」の追求とその体得を示している。さ



らに本文にあるような「論語」の「泰(たい)伯(はく)第八」の曾子曰く「士は以て弘(こう)毅(ぎ)きならざるべからず。伝(つた)重(おも)くして道(みち)遠(とほ)し。仁(に)以て己(おのれ)が伝と為す。亦(また)重(おも)からずや。死して後(のち)に己(おのれ)已(や)む。亦(また)遠(とほ)からずと云えり。」

小生にとつてはいずれも難関であるが、結果はささやかであつても、肚(はら)を据えて向き合うつもりでいる。

*注(1) 渡辺一郎編「武道の名著」東京コピー出版社

*注(2) 「柔道雨中間答」原文のかたかなをひらかなに直した

*注(3) 水野忠通 江戸の起倒流鈴木清兵衛の高弟

*注(4) 曾子。曾参のこと。

子は尊称。孔子の弟子。孔子の教えを伝えるのに、最も功のあつた一人。

直心是道場

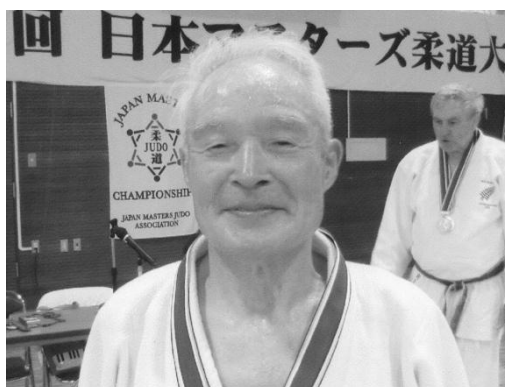
高橋勘十(岩手県)

柔道の習い始めは、昭和十八年、中学校に入学してです。武道が正課で、家には兄が使用した柔道着があり做つたのです。

それも戦時下で二年の半ばで中断、続く敗戦で武道は禁止、解禁になるのは昭和二十六年当時は岩手大学の学生で、兄の仕送り日本育英会奨学金、それに

アルバイトで補う寮生活で余裕などありませんでしたが、そこへ第一回東北学生柔道大会の案内が舞い込んできたのです。準備のないまま、心だけは勇躍、仕舞い込んでいた柔道着を引き出し、杜(つ)の都(みやこ)仙(せん)台(だい)へと赴(むか)いたのでした。

これを機に一念発起、文武両道



を標榜し、柔道再開を決したのです。

その時出会うのが「直心是道場」の禅の論です。

心さえあれば、何時でも、何処でも、一人でも出来ると覚悟したのです。

座右の銘です。

大会は普段の成果を問う研修交流、平たくは健康診断の機会等思い出場しています。

マスターズ柔道大会救護について 森本唯行(神奈川県)

私は、マスターズ柔道協会の依頼により、第八回・千葉勝浦大会より救護を引受けた森本です。実は第五回ワールドマスターズ世界大会が東京講道館で開催された折も救護を引受けて大変な思いをしました。

試合するよりも疲れました。責任があるからです。千葉大会は開催される十日前に腹膜炎を患い入院を致し、試合当日は病院のベッドの上で点滴と痛みの苦しみと戦っており、健康であることが大切であると痛感した次第です。

マスターズ柔道は誰にも拘束されず柔道愛好者によって作られた団体です。三十歳以上の方であれば誰でも参加できますので、友人知人に参加呼びかけを行って下さい。

山口大会は試合の前に「この大会は健康で試合が出来るよ」とびと、友情と信頼を信じて、事故のない大会にして欲しい」と皆さんに話しました。お陰様にて、大きな事故もなく終えたことに心から感謝しております。

マスターズ出場選手の中には、私よりも優れた治療の先生方がお



られると思いますので、時間の許す限り参加をお願いします。

私の試合中交代してくださった先生(山口の赤尾先生・埼玉の大塚先生)どうも有難うございました。今後とも宜しくお願いいたします。

会員の皆様のご健康を祈り乱文にて失礼いたします。

私とマスターズ柔道

安河内 浩(東京)

私は中学生の時に右目の視力を失いそれまでやっていた野球が出来なくなりました。大学に入った時同級生の一人に柔道に誘われ6年間続けました。卒業後も大学に残ったので数年は学生と楽しんでいたのですが本職が忙しくなり柔道とは縁が切れていました。

60歳から母親の介護をするこ



とになり、その母親がなくなつたので65歳で仕事を辞め、数カ月車で気儘に日本一周などを楽しんでいたので、近くのスポーツセンターで大矢さんに会い40年振りに柔道を再開することになりました。半年位は前方回転も出来ない様でした。大矢さんが野口さん達に誘われて第2回世界マスターズ柔道大会に参加することになり、お世話になつてゐる恩返しにと同伴することになり、お前も出ないかと云うことで参加した所金メダルを貰いすつかりはまつてしまいました。写真はその時の表彰台です。

その後日本マスターズにも参加していましたが2年前に脳梗塞にやられてもうこれまでと覚悟を決めたのですが幸い軽症で、昨年は試合中眩暈が始まり途中棄権をしたのですが、今年は何とか一戦終ることが出来ました。

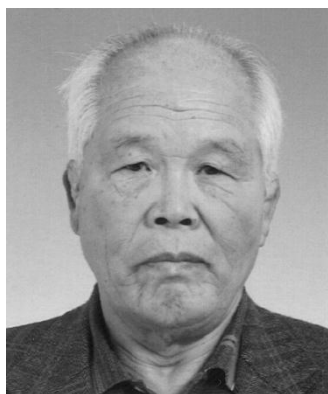
形の部では最高齢になつてしまい、80歳以上の功労賞も貰いソロソロ年貢の納め時と判つていますが出来れば来年の第10回まで参加できればと思つています。

「私とマスターズ柔道について」

栗村 曜似 滋賀県

私は現在縁あつて兵庫県の柔連会に所属する一員ですが、現役時代は京都府警察の柔道特練生として各種大会に出場して参りました。そして京都府警の指導者として定年を迎え、その後も柔道にかかわらせて頂いている者です。ですからマスターズ柔道に出場する人達は柔道を趣味としてやっておられる方たちの大会であり、あまり興味はなかったのですが、お世話した人から頼まれ、第二回日本マスターズ大会から団体の一員として出場して参りました。出場するなら個人戦もと、第6回大会から年齢別・無差別にも出場させていただいております。たかがマスターズと思つておりましたが、気持ちが大んだんと変わつてまいりました。強い選手もおられるのです。子供達との週2〜3回の練習のみ

で出ておりましたが、昨年団体戦で初めての屈辱を味わいました。体力の衰えを実感し、現在練習日以外の日は1万歩早足歩行をやっております。体調は良好、現在はマスターズに感謝しております。その他、出場8回目になると馴染みの人達もだんだんと増え、マスターズの良さを実感しております。試合のできる身体に感謝し、いつまで続けられるか楽しみにしております。人生は常に前進・前進です。総てのことに最善を尽くして、この社会により良く貢献することが人生だと思つております。



*全日本柔道選手権大会
出場者 元京都府警師範

全日本形選手権
古式の形 優勝

取 佐藤 良吉
受 加藤 隆雄

平成24年全日本柔道形競技大会を終えて

新宿区柔道会 加藤隆雄

去る10月21日(日)講道館大道場にて、表記柔道形競技大会が行なわれた。

出場種目は古式の形(東京地区代表:取佐藤良吉七段(北区柔道会)・受加藤隆雄六段)で、出場選手12組中、最後から2番目の11番目であった。

出場に当たり、とにかく今まで練習してきた技をミスすること無く、落ち着いて正確にやる事を第一として、競技に臨んだ。各組の競技が進むにつれ、前の組がどんどんと高得点をあげると、それが為に緊張感が漂い、仕舞には大きな重圧を感じるようになった。

本番では最初から余分な力が全身をよぎり、それが息の乱れを生じていつもと違う状態に陥って

しまった。反面、取の佐藤七段は



さすが優勝経験者(平成20年米重清光七段(大田区柔道会)とのペアで優勝)らしく威風堂々とし落ち着いていた。これにより私もなんとか急場を凌げることができ、優勝に繋がったものと思料している。

起倒流では古式の形はいついかなる場合にも己の最善を尽くし得る、いわゆる「本体」を養うことを目標としている。今回、幸いにも優勝することが出来たがこの経験を活かす、これからの修行の糧としたい。

現在、講道館で週二回醍醐敏郎先生のご指導を賜っているが、そのご教示を深化すべくより一層精進する覚悟である。同時に、今回の優勝に際し、先生はもと

より古式の形の手ほどきをして下さった都柔連の先生方、現在一緒に練習して下さっている諸先生方、前回・前々回の日本マスターズ形大会でお世話になった先生方及び関係各位に心から御礼申し上げる次第です。

中学校の武道授業を体験して

久宮登三夫

今年度から導入された、中学校での武道必修化に伴い、近くの中学校長から外部講師として柔道の指導要請があり、これを引き受け十一月から授業をおこなっています。

中学校での授業は、一〇〜一二時間であり、週二時間授業で



時	月	火	水	木	金
1	2年	3年	3年	2年	
2	男-34	女-34	女-56	男-34	
3	3年	1年	2年	1年	2年
4	女-34	男-12	男-12	男-34	男-56
5	3年	1年	2年	1年	3年
6	女-12	男-34	男-56	男-12	女-56
7	2年		3年		1年
8	男-12		女-12		男-56
9	1年				
10	男-56				

週:18時間

約五〜六週間で終了します。

実際に指導に当たりますと、色々な面で苦悩と歯がゆさが入り乱れ、相談や情報交換の場があつたらと痛感しています。

参考までに、私の一週間の授業は、一八時間を担当しており、学年も一〜三年生の男女別の四〇〜四五名の生徒に授業を行っています。

文部科学省の指導目標ですと、一〇〜一二時間目には、「簡易試合をする。二・三年生ですと「得意技を身につけ連絡技等を活用した総合的な試合をする、」が目標とされています。一方では、安全第一が最優先で指導に当ることとされています。

当然、安全を最優先で指導に当たっていますが、四〇人の生徒の中には、運動能力等の違いもあり、基本の受け身でさえも身に

つけるまでの時間に大きな差が出ます。

また、技を教えるにしても、柔道の用語を用いて説明しても理解できない場合もあり、やはり試技(見本)を見せながらの指導が理解が早まることは間違いな

いようである。
しかし、四〇人(二〇組)を一同に介して指導することは困難な状況が多々あり、特に、投技では、受けと取りの双方について怪我をさせない投げ方を、そして怪我をしない投げられ方(受け身)を指導すると五〇分はあつという間に過ぎてしまいます。

武道必修化は武道精神による人間性の向上が目的であると思





いますので、私の授業では、感謝や我慢等を含む精神面をも含む礼法を重視した授業の展開を心がけています。

幸い私にとっては、生涯忘れることのできない恩師故老松先生からご指導いただいた「礼法を重んずる柔道指導」を思い出し、私も礼法を重んずる柔道の指導に心掛けて行きたいと思っています。

いずれにしても、悪戦苦闘しながら中学生に柔道を、楽しく、厳しく、安全に心を掛けて教えていきたいと思っています。今後よりよい指導に向け、日本マスターズ会員の皆さんの中で中学校で教えている方がございましたら、授業の視察等、情報交換を行える機会ができれば良いなと思っています。

第9回 日本マスターズ柔道大会・山口大会

日程：2012年 11月10日(土) 11日(日)

場所：山口県周南市 キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

第9回山口大会の記録(結果)

【形競技の部】

投の形		
1位	取	入江浩正 大阪
	受	奥野勝彦 大阪
2位	取	鈴木治雄 千葉
	受	石邑 勇 千葉
3位	取	古峯弘道 栃木
	受	養和田功 栃木
固の形		
1位	取	片岡孝志 徳島
	受	中津大資 徳島
2位	取	養和田功 栃木
	受	古峯弘道 栃木
3位	取	石川厚二 東京
	受	永島健次郎 千葉
極の形		
1位	取	安東鉄男 大分
	受	重石雄大 大分
2位	取	植木良夫 栃木
	受	古峯弘道 栃木
3位	取	石邑 勇 千葉

柔の形		
1位	取	岩田美喜 愛知
	受	内田みゆき 愛知
2位	取	今立篤子 秋田
	受	長崎桂子 石川
3位	取	内藤 純 栃木
	受	杉原 尚 茨城
講道館護身術		
1位	取	溝田良英 長崎
	受	川上寛之 長崎
2位	取	内藤 純 栃木
	受	植木良男 栃木
3位	取	甲斐浩二 宮崎
	受	奈須開生 宮崎
五の形		
1位	取	赤尾信行 山口
	受	藤本哲夫 山口
2位	取	西久保博信 神奈川
	受	三橋英夫 神奈川
3位	取	山本健夫 東京
	受	田倉幸夫 東京
古式の形		
1位	取	赤尾信行 山口
	受	藤本哲夫 山口
2位	取	清家春夫 千葉
	受	役田英穂 埼玉
3位	取	清水正敬 東京
	受	安藤洋志 埼玉

M1 60 kg級		
1位	保坂 稔	福岡
2位	久保田旭	山口
M1 66 kg級		
1位	原田大輝	兵庫
2位	北野将章	兵庫
3位	松山英樹	山口
M1 73 kg級		
1位	高村 栄	山口
2位	惣田 充	神奈川
M1 81 kg級		
1位	磯田和伸	兵庫
2位	高嶺和秀	宮崎
M1 90 kg級		
1位	有泉昌英	山口
2位	小松広典	滋賀
3位	大浴慎吾	山口
M1 100 kg級		
1位	佐無田亮	大阪
2位	齋藤敏行	宮城
M1 100 kg超級		
1位	大浴祥吾	山口
2位	松原勝利	高知
3位	豆成聡太	山口
M2 60 kg級		
1位	遠嶋晃二	山口
2位	内山年明	鹿児島

M2 66kg級		
3位	栗原正幸	埼玉
M2 73 kg級		
1位	高本裕和	東京
2位	岩村憲幸	大阪
3位	福富忠信	長崎
3位	吉富久悦	山口
M2 81 kg級		
1位	岩本健治	山口
2位	井澤 毅	山口
3位	高岡浩平	石川
3位	市来隼人	大阪
M2 90 kg級		
1位	中野正徳	岡山
2位	川村林太	鳥取
3位	西條邦彦	静岡
3位	Andrew crystal	NZ
M2 100 kg級		
1位	清田雄大	愛知
2位	中田 浩	高知
3位	室 王貴	大阪
M2 100 kg超級		
1位	坂本 究	長崎
2位	大塚武士	福岡
3位	井上省司	千葉

3位 中谷善和 滋賀	M3 60 kg級	1位 吉田静樹 千葉	2位 久保井寿 和歌山	3位 佐野秀樹 島根	3位 吉嶋大二 東京	M3 66 kg級	1位 西尾真治 埼玉	2位 坂元哲志 鹿児島	3位 林 友晴 大分	M3 73 kg級	1位 山本敦士 山口	2位 藤原 誠 兵庫	3位 山本啓介 大阪	3位 岩本和利 兵庫	M3 81 kg級	1位 平野 太 大阪	2位 中川 隆 大阪	3位 長谷川靖二郎 大阪	3位 樽谷 忠 兵庫	M3 90 kg級	1位 桂 剛 大阪	2位 河野育彦 山口	3位 檀上竜二 愛知	3位 岩田竜一 大阪	M3 100 kg級	1位 片山幸昌 兵庫	2位 平田和義 大阪	3位 長谷川靖浩 千葉	3位 川坂修治 石川
M3 100 kg超級	1位 橋 昌宏 岡山	2位 藤井宏之 大阪	3位 田中 司 福岡	M4 60 kg級	1位 今嶋禄郎 大阪	2位 村田貴弘 山口	3位 小玉 勉 兵庫	M4 66 kg級	1位 保科匠吾 富山	2位 喜多康之 大阪	3位 清本英治 奈良	M4 73 kg級	1位 宮本和典 山口	2位 野口 修 大阪	3位 岡村忠彦 東京	3位 北條博嗣 高知	M4 81 kg級	1位 甲能 武 大阪	2位 伊藤大介 山形	3位 野田隆文 東京	M4 90 kg級	1位 阿部雅人 東京	2位 小坂重人 秋田	3位 新谷保和 歌山	3位 南 睦志 滋賀	M4 100 kg級			
1位 原口正秀 福岡	M4 100 kg超級	1位 堺 収司 福岡	2位 窪田智之 愛知	M5 60 kg級	1位 大屋智次 福岡	2位 廣瀬 聡 千葉	3位 中村正人 北海	3位 久保篤士 神奈川	M5 66 kg級	1位 平野健太郎 千葉	2位 梶 泰章 神奈川	3位 三田博之 千葉	3位 浅沼正昌 東京	M5 73 kg級	1位 上田一美 愛知	2位 池辺幸登 福岡	3位 和田吉一 兵庫	3位 重森敏行 愛媛	M5 81 kg級	1位 赤尾信行 山口	2位 長谷川正仁 神奈川	3位 國吉真登茂 神奈川	3位 小池伸治 神奈川	M5 90 kg級	1位 美濃達也 岡山	2位 山本邦生 山口	3位 前澤一吉 東京		
M5 100 kg級	1位 高橋洋一 埼玉	2位 川野昭彦 千葉	3位 中山章司 香川	M5 100 kg超級	1位 赤尾文也 山口	2位 村上隆志 青森	3位 児島恭司 岐阜	M6 60 kg級	1位 北尾 浩 兵庫	2位 木下勝巳 宮崎	M6 66 kg級	1位 養父洋介 兵庫	2位 佐々木政彦 埼玉	3位 福田孝俊 島根	3位 甲斐浩二 宮崎	M6 73 kg級	1位 佐藤光磨 青森	2位 石邑 勇 千葉	3位 山口光男 愛知	3位 大塚 忠 神奈川	M6 81 kg級	1位 卜部秀幸 愛知	2位 横山孝信 石川	3位 小野三典 千葉	3位 伊福義雄 宮崎	M6 90 kg級	1位 大塚俊彦 埼玉		
2位 西山壽由紀 香川	3位 井上和久 岡山	M6 100 kg級	1位 高橋正次郎 奈良	M6 100 kg超級	1位 中川博文 兵庫	M7 60 kg級	1位 三上貴士 東京	2位 西谷博一 東京	3位 鍋浦 正 香川	M7 66 kg級	1位 佐原恭輔 長崎	2位 原 優 東京	3位 稲田 豊 山口	3位 八坂楠夫 千葉	M7 73 kg級	1位 砂川利和 山口	2位 久宮登三夫 栃木	3位 土谷勝広 千葉	3位 安井清一 千葉	M7 81 kg級	1位 大野木利永 山形	2位 吉成隆杜 東京	3位 吉永豊貴 大阪	3位 太田明男 神奈川	M7 90 kg級	1位 山本 昭 兵庫	2位 大漣光好 宮崎		

3位	向博文	埼玉	M7	100 kg級	1位	安立俊二	兵庫	2位	山下猛	福岡	M7	100 kg超級	1位	上野清吾	熊本	2位	足羽裕二	兵庫	M8	60 kg級	1位	大矢八平	兵庫	2位	加藤忠勝	東京	3位	大谷光三郎	東京	3位	田倉幸夫	東京	M8	66 kg級	1位	柿田豊一	石川	2位	濱口國光	愛知	3位	馬場猪虎雄	兵庫	3位	内藤光伸	神奈川	M8	73 kg級	1位	吉野二郎	島根	2位	宮脇政美	香川	3位	鳥津澄夫	千葉	3位	来田武	香川	M8	81 kg級	1位	諸山和美	愛知	2位	三橋英夫	神奈川	3位	清家春夫	千葉	M8	90 kg級	1位	鷹尾健治	香川	
2位	池田正男	兵庫	M8	100 kg超級	1位	本多喬	新潟	M9	60 kg級	1位	橋春夫	大阪	2位	相田盛良	長崎	3位	宮崎公夫	兵庫	3位	永島健次郎	千葉	M9	66 kg級	1位	大蓬龍史郎	埼玉	2位	湊谷公	富山	3位	中島忠	埼玉	3位	仁木征輝	岡山	M9	73 kg級	1位	西尾勝彦	奈良	2位	内藤純	栃木	3位	伊藤久雄	千葉	3位	中嶋幾美	長崎	M9	81 kg級	1位	今里宏一郎	東京	2位	徳永米雄	千葉	3位	大塚治城	神奈川	3位	飯屋悟	兵庫	M9	90 kg級	1位	堤貞介	北海道	2位	Rick little wood	NZ	3位	大上敏幸	東京	M10	60 kg級	
1位	杉原尚	茨城	2位	岡田庫二郎	兵庫	M10	66 kg級	1位	山本健夫	東京	2位	若月良夫	新潟	3位	川端多美	滋賀	F5	52 kg級	1位	山中智視	香川	F5	63 kg級	1位	村上さとみ	青森	2位	木下京子	宮崎	M11	73 kg級	1位	安河内浩	東京	2位	中山孝行	富山	M11	90 kg級	1位	森本唯行	神奈川	M12	73 kg級	1位	美濃岡清三郎	兵庫	M12	81 kg級	1位	太田尚充	青森	2位	上島彬	大分	F1	48 kg級	1位	大嶋里栄	山口	F1	63 kg級	1位	竹中直子	鳥取	F1	78 kg級										
1位	松本容子	宮崎	F3	52 kg級	1位	福永美香	山口	F3	57 kg級	1位	佐伯智津江	山口	2位	田畑美和	宮崎	3位	川端多美	滋賀	F5	52 kg級	1位	山中智視	香川	F5	63 kg級	1位	村上さとみ	青森	2位	木下京子	宮崎	M1	【年齢別無差別級個人戦の部】										1位	大浴祥吾	山口	2位	高嶺和秀	宮崎	3位	大浴慎吾	山口	M2	1位	坂本究	長崎	2位	大塚武士	福岡	3位	中谷善和	滋賀	3位	佐藤真生	宮城	M3	1位	桂剛	大阪	2位	長谷川靖二郎	大阪	3位	平野太	大阪	3位	藤井宏之	大阪
M4	1位	竹中恭司	鳥取	2位	堺収司	福岡	3位	伊藤大介	山形	3位	北條博嗣	高知	M5	1位	赤尾信行	山口	2位	高橋洋一	埼玉	3位	西村一晃	滋賀	3位	平野健太郎	千葉	M6	1位	阿古裕弘	奈良	2位	卜部秀幸	愛知	3位	横山孝信	石川	3位	一言力	静岡	M7	1位	上野清吾	熊本	2位	久宮登三夫	栃木	3位	吉成隆杜	東京	3位	足羽裕二	兵庫	M8	1位	片桐清司	滋賀	2位	本多喬	新潟	3位	池田正男	兵庫	3位	葛西正臣	北海道	M9	1位	堤貞介	北海道	2位	清水常雄	新潟	3位	今里宏一郎	東京			

3位	飯屋 悟 兵庫	M10	1位	栗村曜似 滋賀	2位	奈良 澄 愛知	3位	若月良夫 新潟	M11	1位	高橋勘十 岩手	2位	中山孝行 富山	M12	1位	太田尚充 青森	2位	美濃岡清三郎 兵庫	3位	上島 彬 大分	F5	1位	山中智規 香川	2位	村上さとみ 青森	【団体戦の部】 男子結果										5	京都・足利会クラブ	5	滋愛会	1	長崎三菱柔道クラブ	7	チーム ヤマグチ	5	岡山県柔道連盟	3	元気ひむか	10	柔錬会	0	東京ガス・大阪ガス合同												
4	⑤	丸の内柔道倶楽部	4	滋愛会	⑥	チーム ヤマグチ	3	三田綱町倶楽部	3	丸の内柔道倶楽部	⑤	岡山県柔道連盟	2	柔錬会	④	チーム ヤマグチ	男子決勝戦														2	岡山県柔道連盟	先鋒	石田 崇	次鋒	中野 正徳	三	橋 昌宏 ○有	四	田村 吉永 ○	五	日下 孝司	六	美濃 達也	七	八	副将 仁木 征輝	大将	川上 勝	⑤	チーム ヤマグチ	先鋒	永塚 武将	次鋒	奥嶋 曜 ○技	三	河野 育彦						
四	宮本 和典	五	赤尾 信行 ○	六	赤尾 文也 ○	七	砂川 利和 ○不戦	八	近藤 泰章 ○不戦	副将	岡山 忠博	大将	今井 和男	【男子団体戦出場チーム】																・岡山県柔道連盟 ・京都・足利会クラブ ・元気ひむか ・滋愛会 ・柔錬会 ・チーム ヤマグチ ・東京ガス・大阪ガス合同 ・長崎三菱柔道クラブ ・丸の内柔道倶楽部 ・三田綱町倶楽部 【三位】														女子優勝 ② ちっちゃいものくらぶ 先鋒 大嶋里栄 ○ 中堅 福永美香 ○ 大将 佐伯智津江										女子準優勝 0 寿栄館 先鋒 松本容子 中堅 田畑美和 大将 木下京子									



小川郷太郎先生

関根忍先生

貝瀬輝夫先生



山口大会 懇親会の様子

冒頭で挨拶する自民党高村副総裁夫人



ニュージーランドチームの「ガンバッテ」



清水会長を囲んで

日本マスターズ柔道協会

小林潔司



営（国際武道大学柔道部）まではすべてを当協会事務局で行いましたが、本年の第9回山口大会では（社）山口県柔道協会が大会の共催者となり、主管を周南市柔道協会が務めて頂くことになりましたので、すべて地元にお任せ致しました。

の中心地である周南市のキリン・ビバレッジ周南総合スポーツセンターで決定し、徳山大学柔道部の全面的な協力を頂き、会場の

従つて当協会事務局は大会運

營全般に係る総合的な助言者という立場で意見を述べたり判断を具申したり、また試合組合せの再調整等を行う立場で終始しました。結果的には、成功裏に終わりましたが、本大会の出場選手数、四百二十名の内、山口県からは最多の四十三名の参加があり、形競技においては「五の形」、「古式の形」の赤尾信行・藤木哲夫組の優勝、団体戦では男女の優勝、個人戦においては、体重別、無差別級においても地元山口県の素晴らしい活躍が光りました。

この度の大会開催に当たりましては、(社)山口県柔道協会会長森次定義様をはじめとする大会関係者の皆様には、当協会並びに本大会開催の意義を十分にご理解を頂き、協賛広告から競技運営まで多岐にわたってお世話になり、ありがとうございます。紙面をお借りして感謝と御礼を申し上げます。

次回は更なる向上をめざして
大会に臨む所存ですので、皆様
の引き続きのご支援・ご協力を
御願ひ申し上げます。

「TOPIX
トピックス」

第9回日本マスターズ柔道大会においてM5100kg級と無差別級に出場された高橋洋一選手が東武よみうり新聞の紙面に掲載されましたのでご紹介します。

高橋さん
越谷
100キ
口級で優勝

日本マスタース
柔道50〜54歳



勝は地元山口県
 手（山口県）と
 対戦し、体格と
 力、有効にこら
 れ、惜しくも敗
 れた。金、銀メ
 ダルのダブルス
 無差別級の決
 勝は地元山口県

1987年に地元山口県屋
 根の地元に「鶴岡後援
 校の想」西中柔道部の
 指導者をより後進した
 の指導者になっている。高
 橋は、中学生として
 優勝するまで自分自身の
 練習を怠らないう、鍛え
 られた」と話していた。

越谷市緑の会主催の「**復興・高橋洋一さん**」は10日、11日、に山梨県下野原スポーツセンターで開催した「第9回日本マスターズ柔道大会(日本マスターズ柔道連合会)」の50・54歳クラス(MS)100kg級で見事優勝した。高橋さんはこれに無差別級でも準優勝し、金、銀、銅のメダルを獲得する快挙を成し遂げた。同大会は30歳以上の柔道愛好者が大いに、年制別及び無差別に分けて、体制別と無しで競技が行われた。

「00歳の級は参加定員4人上り、総当たり100%の優勝は日ごろの練習で鍛えられ、高橋くんは千秋戦・川野照弘外に負けて、本、勝く吉田和真選手・山口朋子最後落して一本勝ち、最後に中京国選手・香川明と対戦し、延長戦にもまで大外刈りで技ありを決め、無差別級は16人上りのトーナメント戦で行われ、高橋さんはなんと一人一本入を投げて破り決勝に進出。赤尾昌彦とのエース選手で、100%の優勝は日ごろの練習で鍛え果た成果が実証された機にと感謝意に力を入れていきたい」と高橋さんは身長188cm、体重95kgの柔道六路試合出身で中学生より軟道を始め、高校時代は全日本に出場するが怪我を食った。専門学校卒業後、1988年に柔道師範の資格取得、北海道札幌市の警察に入り、北海岸第一区役所として勤務中に、突然引退して市内公園で子どもたちに教

東武よみうり新聞
2012年12月3日（月）
第1704号より抜粋

81歳、マスタース柔道2冠 北上の高橋さん



北上市川岸の高橋勘十(かんじゅう)さん(81)は第9回日本マスターズ柔道大会の80〜84歳、体重別66キロ級と無差別級で2冠を達成した。対戦は1試合だけだったものの、体重別は9連覇、無差別は2年連続5度目の優勝。80歳を超えても日々の鍛錬を欠かさない18段のベテランは「体の調子が良くなるのが何より」と試合に出られる喜びをかみしめている。

現在は相手と組む練習はしないが、体に染みついた経験がある。1階級上の相手に「柔よく剛を制す」試合運びを展開。横に回すように誘って歩き、タイミングよく体落としを決め一本勝ちした。

高橋さんは「試合は普段の練習を試すとともに、交流も広がり人生豊かになる。これからもできる限り出場し、長生きしたい」と意欲を燃やす。

【写真＝日本マスタース柔道大会で2冠を達成した高橋勘十さん】

(2012/11/28)

第9回日本マスターズ柔道大会においてM
111.6kg級と 無差別級に出場されま
した高橋勘十選手が岩手日報のホームペ
ージに掲載されましたのでご紹介しま
す。

片桐さん2度目の金メダル



日本マスターズ柔道、無差別級で

柔道教室、北桐館びわ道場代表の片桐清司さん(65)＝高月町西阿閉＝は10、11の両日、山口県で開催された日本マスターズ柔道大会、M8クラス(男子65～69歳)無差別級で優勝。5年ぶり2度目の金メダルを受賞した。

片桐さんは同大会に体重別、無差別、団体の3部門にエントリー。体重別、団体では惜しくも2回戦で敗退したが、10人が出場した無差別級では1回戦、2回戦をいずれも体落として1本勝ちし、決勝へ。

決勝戦では元国体優勝者の本多満さん(69)＝新潟＝の足払いのスキを突き、ツバメ返して1本を奪った。

大会前、柔道教室の教え子や保護者が、片桐さんの座右の銘「大和魂」を入れた横断幕を作ってくれ、試合ではこの横断幕に一礼してから畳に上がり、気合いを入れた。

片桐さんは高校卒業後、警官となり、虎姫、長浜署や警察学校などに35年間、勤務。現在、「北桐館」の代表で柔道7段。これまで大会出場は7回で、うち6大会で3位以内に入賞し、優勝は5年ぶり2度目。「優勝できたのは横断幕のおかげ。子どもたちや保護者の気持ちが伝わってきた。喜びをひしひしとかみしめている」と感激していた。

2012年11月13日 18:53

第9回日本マスターズ柔道大会においてM873kg級と無差別級に出場されましたが、片桐清司選手が滋賀タ刊新聞社のホームページに掲載されましたのでご紹介します。

11月10日、11日の両日、山口県周南市の周南総合スポーツセンターにて『第9回日本マスターズ柔道大会』が開催されました。

今年も上島彬(88歳・川向)さんが81kg級で出場し、準優勝に輝きました。併せて、最高齢者に贈られる功労賞も受賞しました。

上島さんは「長く大会に長く参加を続けることが大事。健康に心がけて、来年も出場できるよう頑張りたい」と語ってくれました。



↑前人未到の視野を開ける上島さん。

第9回日本マスターズ柔道大会においてM1281kg級と無差別級に出場されましたが、上島彬選手が竹田市のホームページに掲載されましたのでご紹介します。

ニュース

2012/11/19 月曜日

太田さん(弘前)日本マスターズ柔道2冠

10、11日に山口県で開催された第9回日本マスターズ柔道大会で、弘前市の太田尚充さん(86)が85歳以上90歳未満の部の70キロ級と無差別級で見事優勝を果たした。同市から出場したほかの3人も奮闘し、4人で金メダル4個、銀メダル2個を獲得する活躍を見せた。

【写真説明】日本マスターズ柔道大会で大活躍を見せた太田さん(左から2人目)ら



第9回日本マスターズ柔道大会においてM1281kg級と無差別級に出場されましたが、太田尚充選手が陸奥新報に掲載されましたのでご紹介します。

第十回記念 日本マスターズ柔道大会 兼

第二回IJFアジアグランドマスターズ

正式決定！

日程…9月21日(土)・22日(日)
場所…東京・講道館

第五回IJF世界グランドマスターズ大会

正式決定！

日程…11月24日(日)
場所…アラブ首長国連邦アブダビ

七つの首長国で構成された中東の国、アラビア半島・ペルシア湾に面する。ドバイもその一つ、ほぼ北海道と同じ面積。

1950年以降石油の発見以来、一人当たりの国民所得世界トップクラス。世界一のビル(828m160階建て)があるが、現在、ドバイシティタワー(2400m 400階建て)を計画中。

2025年完成予定。
夢のような世界を楽しみましょう！



建設予定の
ドバイシティタワー



第3回IJF世界グランドマスターズ
ドイツフランクフルト大会日本選手団

アラブ
首長国連邦
アブダビ案内図



『マスターズ柔道の歌』の歌詞を募集します！

第10回の節目の大会を迎えるに当たり、これを記念して、マスターズ柔道の歌を作つてはどうか、とのご提案を何人かの会員の方からいただきました。9月の大会に間に合わせるとなると、あまり時間はないのですが、当委員会としては時宜を得たものと考え、取り急ぎ次の要領で歌詞を募集することにいたしました。特に賞金は予定しておりませんが、奮つてご応募願います。

1. 歌詞の内容…自由です。ただ、みんなで一緒に歌える応援歌のような威勢のいいのが良い、というご意見あり。

なお、作曲をどなたにお願いできるか、時間がなくて決まつておりませんので、替え歌方式を想定して作詞していただけると、ありがたいです。(その場合、元歌の曲名を付記してください)

元歌の一例をあげますと、柔道の歌(昭和28年キングレコード、歌…林伊佐緒、作詞…古賀残星、作曲…細川潤一、YouTubeで聞けます)が考えられます。

2. 応募方法…電子メール

宛先…日本マスターズ柔道協会

広報委員会西久保

riskm001@sage.ocn.ne.jp

応募締切日…3月31日

3. 選考方法…会長を長とする審査委員会を作つて行うか、ホームページ上での会員投票とするか現在検討中。

選考結果発表…

5月中旬の予定

4. その他…何かご意見がございましたら、広報委員会西久保までご連絡ください。

なお、作曲についてお願いできる方をご存知でしたら、教えてくださいます。

広報委員会より

【事務局よりのご連絡】

第8回大会(千葉)以降、日本マスターズ柔道大会の出場受付は協会ホームページ上からの受付が可能となっております。

第8回大会では、受付総数413名のうち、FAX・郵送での受付は277名、ホームページ受付が136名でした。

第9回大会では、ホームページのご利用も増え、出場受付も2年目となったこともあり、受付総数419名のうちFAX・郵送での受付は125名、ホームページからの受付が294名となりました。

また、第9回大会では大会要項もホームページよりファイナルをダウンロードで入手していただくようお願いしておりましたが、ネット環境等の都合によりメール便にて書類を送らせていただいた方は63通にとどまりました。

このようにホームページを利用した情報の授受ができることになり、発送や入力などに伴う事務作業が軽減され、ご本人からの送信により入力間違いなどの不備は激減しました。

今後とも、より適切な利用をしていただけるよう改良を重ねたいと思いますが、ホームページのご利用などが困難な方におかれましては、従来どおりお電話やFAXによるお申し込みやご意見なども承っておりますので、会員の皆様にはより良い方法を選択いただくとともに、ご不明な点やご意見がございましたら、事務局宛にお知らせ下さいますようお願い致します。

(事務局 玉田)

【編集後記】

平成24年のIJF世界グランドマスターズ柔道大会はブラジル(サルバドル)が返上したため、代替え開催地がアメリカとなったが、開催日程が日本マスターズ柔道山口(周南市)大会と重複したため、日本マスターズ柔道協会は山口大会一本に絞る決断をすることとなった。

山口大会のハイライトは今大会で「マスターズ功労賞」を受賞された80歳以上の7人でありましょう。マスターズ年齢区分M12の上島 彬先生(88歳・大分)美濃岡清三郎先生(87歳・兵庫)太田尚充先生(86歳・青森)と続き、2分30秒とはいえず試合も2試合戦っているから凄いです。

65歳以上の高齢者が総人口の22%以上になり本格的な高齢社会に突入している日本で

「ウェル・ビーイング」とは「よりよく生きる」「自分らしく生きる」と解されているが、ウェル・ビーイングの3つの条件である「長寿」「高い生活の質」「社会貢献」を備えた模範的日本人(柔道人)に心から拍手を送りたい。

西久保 博信

※本年は女性参加者の増加を目指しております。皆様奮つてご参加ください！団体戦優勝チームには優勝杯を贈呈します。

